

ウムチョ ムィーザ通信

No. 50

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

～総会を終えて～

NPO法人ルワンダの教育を考える会
理事長 永遠瑠マリルイズ

皆様のご協力のおかげで無事に総会を終えることができましたことを心から感謝いたします。去年沢山の約束をいたしました。それを一つ一つ実現に向かって努力してきました。日本国内では私の長い留守にもかかわらず皆様のご支援によりイベントに参加したり、帰国してからもいろいろな場所で講演会ができるようにスケジュールを組んでくださったり、毎年と変わらずにルワンダでの私の体験を通した話をさせていただきました。

昨年度の現地での取り組みと活動を通して見えてきたことをご報告いたします。



―ウムチョムィーザ学園の支援を引き続き行いました。グラウンドが出来たことによって地域の若者と一緒に“UMUCO MWIZA FC”というサッカーチームを作りました。試合に参加し、予選で優勝しキミロンコ地区の代表チームに選ばれました。そのおかげで地域の方々ともお話しすることができました。ウムチョムィーザ学園が果たしてきた役割に皆が気付いてくださっていることが嬉しかったです。

地区の方々が「ウムチョムィーザ学園は貧しい家庭の子ども達もそうでない子ども達も受け入れて教育の質も高い」と話してくれました。ウムチョムィーザ学園はキミロンコ地区にとってなくてはならない存在になりつつあります。

―算数指導力向上プロジェクトも順調に進んでいます。キミロンコ地区に広げることに向けて努力をし続けます。

―キミロンコ1と2の子ども達も給食を食べることによって勉強についていけるようになり、お腹を満たすことによって、心も穏やかになったとの報告も受けました。

―ミヨベ地区の子ども達にも笑顔がみられるようになりました。以前は行くと私達の顔をみて泣いていた子ども達は今は笑いながら歌と踊りで私達を迎えてくれるようになりました。お母さん、お父さんの様子も変わりました。働く意欲も少しずつ出てきています。お互いに信頼関係を深めながら活動を続けます。

―健康診断は、フェリシモ・AMDAと岡山県の協力のおかげで1000人以上の子ども達を診ることが出来ました。日本のお医者さん3人とルワンダ人医師2人と5人の医学生と看護師さんで実施出来ました。健康な体で学べる幸せを子ども達に感じてほしいと願っています。



授業研究

会員お一人お一人そして支援者の皆様方の真心のおかげで活動を続けることが出来ましたこと感謝いたします。課題はもちろんたくさんありますが子ども達の笑顔に支えられながら今年もがんばります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

ウムチョムィーザ学園の卒業生が結婚しました。彼の言った言葉を皆様にもお届けします。“僕は自分がこのように成長出来たのはウムチョムィーザ学園があったおかげです。日本の皆様に心から感謝します。”

「学びこそ その人らしく生きる大切なもの！」ありがとうございました。





NP0法人ルワンダの教育を考える会ルワンダ事務所からの報告

ルワンダ支援の会計報告

* 2018 / 3 / 31 現在時価換算による

期間：2018年1月～3月

単位：円

ADESOC	ミヨベプロジェクト	算数指導プロジェクト	健康診断事業	ルワンダ事務所	計
381,505	603,322	117,760	2,449	886,547	1,991,583

※ 日本の円をルワンダへ送金すると、日々金額が変動するので、報告額を単純に比較できないので、おおよその金の動きとしてご理解願います。今回は 100 ルワンダフラン≒12.24 円で表記します。

ルワンダ事務所より

理事 望月優子

皆さま、ルワンダ現地事務所より望月です。今回のニュースレターでは、ミヨベプロジェクトの様子を具体的にお知らせしたいと思います。ミヨベとは、キガリから2時間半ほど北に離れたギチュンビ市の中にある一つの地域です。ここには、“歴史的に虐げられた人”たちがおよそ 100 人ほど暮らしています。このプロジェクトでは、そのコミュニティ開発、及びその中に設立されている ECD&F センター（＝早期幼児教育施設）に通う年少・年中・年長の子ども達、それから周辺地域の 0 歳～3 歳の子ども達を対象に支援を行っています。昨年 7 月から始まっているのが、10 時のおかゆと12時の給食提供です。



私が、昨年 10 月に初めて訪れてから子ども達の様子は大きく変わりました。何度も訪ねるうちに表情はみるみるうちに明るくなりました。このコミュニティには、歌や踊りが秀でた才能を持つ人が多くみられるため、休み時間には 4、5、6歳にして大人顔負けのドラマーの音頭のもと、子ども達の元気な歌声が響きます。歩きたてほやほやの赤ちゃんも太鼓が大好き。

私たちの活動は、現地を訪問して人々と触れ合うことが1つ。そして、NP0 から支援しているおかゆや給食をきちんと食べているのか、センターの管理はきちんと出来ているのか、などをチェックしながら様子を伺います。また、栄養失調の子ども達がいて、支援している食糧で子ども達が成長しているのかを評価するため、身長・体重測定も行います。センターで問題があるときは、どのように解決していくのかを話し合い、ときには行政担当者や市長を交えて解決策を模索します。

現地滞在中の日本人と一緒に訪問することもあります。出来る範囲で活動現場に触れて頂く機会を持つことで現状が伝わる幅が広がるからです。

今は、月に最低二回訪問してこのような活動を行っています。今後は、コミュニティ啓発のワークショップと共に職業訓練を開始するのでその内容に参加することが大きな活動の割合を占めていく予定です。

特に、“歴史的に虐げられた人”と政府が呼ぶコミュニティ開発は、とても時間がかかり、成果が見えにくい側面があります。しかし、そういったところこそ、我々NP0 が入るべきだと私は考えます。なぜなら、大きな国際機関は成果の見えやすいところで事業を行う傾向があるためです。どこからも見放され、本当に助けが必要なところに手を差し伸べられる、そういう NP0 のあるべき姿を追っているのではないのでしょうか。今後も長い目で支援の様子、成果を見守り、サポートして頂ければ幸いです。

注) Facebook では毎月最低一度、新着情報として情報発信をしております。

平成29年度通常総会報告

平成30年5月27日（日）福島市で開催された通常総会の概要を報告します。



1、平成29年度事業報告

- (1) 理事長マリールイズが全国各地46か所で講演活動
- (2) 異文化理解のイベント活動・Rwandaful Summer2017
福島市にてケニアでスラム街の子ども達の支援を続ける早川千晶さんとのトークセッションを開催した。アフリカの子ども達の未来について考える企画となった。
- (3) ウムチョムイーザ学園の支援事業
日本企業の支援でグラント整備ができ、昨年10月ルワンダで初めての運動会を開催した。11月には31名が卒業し、2007年から数えこれまで296名が巣立った。いま卒業生はルワンダの各界で活躍している。
- (4) 子どもの健康プログラム2017（フェリシモ基金助成事業）
学園の健康診断、貧困地区ミヨベの子ども達の健康診断を実施した。虫歯が多いことから歯磨き指導を行った。またルワンダの医学生、保護者対象のセミナーを開催し、病気の早期発見のために集団健診の重要性を広く訴えた。
- (5) ミヨベプロジェクト
ルワンダ北部にあるギチュンビ市ミヨベ町は日雇い労働を主とする貧困層が多く衛生状態も悪いことから行政と協力し、子ども達の給食支援を実施。今後住民の職業訓練を予定している。定期的に訪問しながら、住民が収入を得て生活できる基盤づくりを目指している。
- (6) 東日本大震災復興支援事業・
ルワンダカフェ
(二本松市の二ヶ所で毎月実施)
震災直後から始まったルワンダカフェも震災後6年が経過し多くの避難者が新たな移転先に移住している。昨年6月に避難者の皆さんとこれまでを振り返る「ありがとうパーティ」を開催。
- (7) 算数指導力向上プロジェクト
(JICA 受託事業)
キミロンコ地区の小学校の先生の算数指導力向上を目的に校内研修を継続、昨秋研究授業実施。

平成29年度事業会計報告		
H29. 4. 1～30. 3. 31		
収入の部		
会費	1,145,000	正会員、賛助会員会費
事業収入	3,662,686	講演会、物販
委託事業	4,437,841	JICA, アマホロプロジェクト
助成金	86,657	福島市、JICA
寄附金	2,600,000	グラント整備指定寄附
	1,756,716	クラウドファンディング
	2,101,040	アマホロプロジェクト
	6,281,949	その他寄附
	240,353	入場料、協賛、利息
収入合計	22,312,242	
支出の部		
NGO事業費	1,898,066	学園運営
	3,654,695	グラント整備
	372,766	健康診断
	1,979,815	ミヨベプロジェクト
	573,240	キ地区学校給食補助
NGO事業経費	3,789,080	事務所経費、活動費
委託経費	3,740,096	JICA草の根事業
国内事業費	1,208,608	講演旅費
	727,170	コンサート旅費会場
	894,031	コーヒー紅茶仕入れ
	102,816	ルワンダカフェ、熊本震災
管理費	2,598,295	給与、通信印刷、税金
支出合計	21,538,678	
残高	773,564	
前年度繰越	8,029,218	
次年度繰越	8,802,782	

事務局長
永遠瑠ルーシー

2、平成30年度事業計画

- (1) 学園の自立化促進と財政支援・・・貧困家庭の授業料支援、奨学金、先生のスキルアップ
- (2) 子どもの健康診断事業・・・これまで受診した子どもの病気フォロー、セミナー開催
- (3) ミヨベプロジェクト・・・子ども達の給食支援、住民の自立のための職業訓練
- (4) 小学校教員の算数指導力向上プロジェクト・・・キミロンコ地区の研修会開催
- (5) その他、Rwandaful Summer2018, 講演活動ほか



平成30年度役員紹介			
理事長 永遠瑠マリールイズ			
副理事長	倉持睦子	副理事長	矢野なつ美
理事	大槻美智子	理事	佐野孝治
理事	鈴木恵子	理事	望月優子
理事	大寺智子	監事	大和田紋子



NPO法人ルワンダの教育を考える会新旧理事挨拶

これまで長い間当会を支えていただいた理事3名が交代されました。齋藤照子理事・本田啓之理事・阿部貞夫理事3名の方々は、ルワンダ現地に赴いて当会の活動に多大な貢献をしていただきました。さらに事務局としても本会を支えてくださり感謝申し上げます。そして新理事の皆様当会発展のためによりしくお願いいたします。

【旧理事退任あいさつ】

今年の総会をもって、長きに亘った理事のお役を離れました。2012年からは、ルワンダの現地事務所での任務で、言葉の不自由な私が、どこまで任務を果たせたかは分かりませんが、私自身では、精一杯やり尽くしたと思っております。

来年からは、東ティモールで新しい活動を始めます。活動の場は変わりますが、ルワンダへの想いは、変わりません。

今後の当会のより良い発展を祈念すると共に、これからもよろしく、お願いします。それではまた。



2018.6.8 IZUBA 照子

副理事長・事務局長として約10年間をマリールイズ理事長・会員支援者の皆様と一緒に様々な活動に関わり、充実した時を刻むことができました。今後は会員として関わって行きたいと思います。有難う御座いました。



2018.6.4 本田啓之

今、学園で取り組んでいるJICAプロジェクトには申請段階から関わり、いま最終段階を迎えています。この2年間は自分にとって貴重な経験であり、人生の宝ものです。今後は一会員として会の発展のためにサポートしていきます。

これまでのご支援に感謝申し上げます。



2018.6.2 阿部貞夫

【新理事あいさつ】



皆さんこんにちは。当会発足当時から理事を7～8年させていただいたので、新とは言えないですね。素晴らしい方々との出会いが楽しくて自分の出来る範囲で参加してきました。先日の総会は、要項の素晴らしさ・会計管理の明確さ・会員の関心の高さに感動しました。

よろしくお願いします。

2018.6.4 大寺智子



皆さんこんにちは。これまで2013年から、福島大学の学生とJICA二本松、ルワンダの教育を考える会とが連携して、「クローズアップ Africa」、「Re:Fukushima」、「ルワンダフルサマー2015」などを開催してきました。

これからも学生を巻き込んでいきたいと思いますので、よろしくお願いします。

2018.6.4 佐野孝治



皆さんこんにちは！2015年8月より現地ルワンダで様々なお手伝いをさせて頂いております。現地の活動を日本人の観点から見る重要な立場としてお役に立てれば幸いです。

2018.6.2 望月優子

20年後の未来へ

会員 (福島県船引町) 大河原 伸



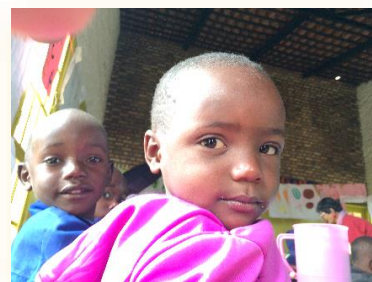
それまで写真や動画、お話だけのルワンダの地に、2018年3月21日、初めて降り立ちました。約20年前、マリールイズさんと出会い、悲惨なジェノサイドの様子、ルイズさんの家族が一家で来日したこと、そして平和になるための学校建設など、ルワンダはいつも、私の身近にありました。

そしてついに、ルワンダの旅が実現しました。

今回、いろんな所、いろんな人達に会わせてもらいましたが、一番印象的だったのは、極貧のミヨベ地区を訪ねた時でした。標高2000mにあるミヨベ、車から一步外に出ると、震えるような寒さでした。そこに集まってきた子ども達を見てビックリ。裸足に半ズボン、薄い布にくるまり震えているのです。話によると、服や靴がないばかりか、満足に食べることも出来ず、小さな土壁の家の土間で、空腹をこらえながら、うずくまって寝ているそうです。同じ地球の、同じ時間を生きている私達は、食べ過ぎるほど食べ、電気を使い、石油を使い、暖かい布団で寝ています。余りにも違う現実、遭遇した瞬間でした。



「ルワンダの教育を考える会」では、1年ほど前から、おやつや給食の支援を始めました。当初、全く笑いの無い子ども達でしたが、スタッフが何度も通い続け、信頼関係ができたことで、徐々に笑顔が生まれてきたそうです。私は子ども達に、人形劇や手品のパフォーマンスを披露しましたが、ビックリしたのか、ポカンとしていました。でも終了後笑顔で近づいて来てくれました。



ルイズさんは「ここでの生活に満足するのではなく、ここから世界を目指す大人になって欲しい!!」と話しました。その言葉に感動した私は、帰国後すぐ、個人的に募金活動を開始しました。

この募金活動を、この先20年間続け、あの時出会った子ども達の、教育支援をしたいと思っています。私が80歳くらいの時、彼らは大人になり、もしかすると日本にもやって来るかもしれません。これは老後の楽しみとしては最高です。あなたも一緒にどうですか？！

【 スタディーツアー2018 <2018. 2. 16~2. 26> 】

ルワンダへ

ルワンダの教育を考える会事務局長 永遠瑠ルーシー



2年ぶりのルワンダへ今年の2月に行ってまいりました。今回は参加者6名を引率して事務局長として初めての大仕事をさせていただきました。昨年の夏前からルワンダ現地事務所の望月さんを中心に、何度も何度もスカイプやメールを使い日程やツアー内容など細かい打合せをしてきました。参加者の皆さんの中には、ルワンダへ渡航するのは初めての学生さんや、2度目の渡航になる方など様々でした。

渡航の当日、空港での手続きを終えて、飛行機に乗るまで、そして乗り換えをして無事にルワンダの地に降り立つまで、本当に緊張して不安もありましたが、キガリ国際空港で多くの方々に出迎えられ安堵しました。

【ルワンダを知ろう!】というのが今回の旅の大きなテーマでした。24年前に起きた大虐殺を乗り越え、大きな成長と発展の最中にあるルワンダという国ですが、実際に自分の目で見て、現地の空気や人々と触れ合うことで感じる事、また、発展の陰にはまだまだ止まったままの地域や人々がいる現状など……。ルワンダ王国があったころの王様の家や、歴史博物館では、古くからあるルワンダの伝統文化を体験しました。また、ルワンダという国が経験したジェノサイドという歴史を、ジェノサイドメモリアルをたずねて深く知ることができました。実際に同年代の男性からジェノサイドの体験談を聞く貴重な機会がありました。テレビや本などからではなく、目の前で耳にする話にとっても強い衝撃を受けました。

私は、24年前にルワンダから日本へ渡り、はっきりとした記憶としては残っていませんが、ジェノサイドメモリアルでの1日の体験を通して、戦争というものが残す傷跡は目に見えるものとしてだけではなく、人々の心に永遠に残り続けるんだということ。しかし、そんな経験をした国だからこそ、国民一人一人が二度と同じことが自分たちの住む国では起こらないために、起きさせないために、周りの人を思いやり、小さなことからコツコツと立て直して歩んでいるんだということを勉強できた旅でもありました。



首都のキガリは多くの人々が行きかい、ネオンの輝く街ではありますが、少し車を走らせて2~3時間ほどしか離れていない田舎へ行くと全くとっていいくらい、まだまだ貧しく、その日暮らして生活している人々がルワンダ国内に沢山いる等の現状があります。昨年からの支援を始めた、ミヨベ地区への訪問では、日本の事務局として何ができるのか、そして村で暮らしている子ども達の未来のために、私自身ができることは何か、また日本の支援者の皆さんへ今後どのような呼びかけができるかを考え、多くの課題を持ち帰った10日間の旅でした。

ルワンダの教育を考える会は、決して大きな団体ではありませんが、日本国内だけではなく、全世界に私たちの団体をサポートしてくださっている支援者の方々がいらっしゃいます。ルワンダの子ども達の未来のために、今後も多くの方々にサポートをしていただけるよう、事務局そしてルワンダにルーツを持つ私だからこそできること、使命が何なのか探しながら生きていきます。

ルワンダへ行きたい!と思っている方、

ぜひ一緒にルワンダヘスタディーツアーへ行きましょう♪



「ミヨベで感じたこと」

新潟大学2年 原田奨吾



2018年2月16日～26日の日程でルワンダスタディツアーに参加しました。今回のツアーは、2017年5月にマリールイズさん、ルーシーさんとの出会いがあったことがきっかけで始まりました。この場を借りて、まずお二人とのご縁に深く感謝したいと思います。

僕自身、かねて貧しさに喘ぐ人々、特に小さな子ども達の為に何かをしたいという思いが胸にありました。それに加え、真面目に机に向かっているだけでは分からないことは必ずあるはずだと考えていたため、貧困地域と呼ばれる場所を実際に訪れ、現地を肌で感じたいという思いもありました。そのため、今回のツアーの中で、最貧困地域の一つであるミヨベを訪ねることが出来たのは大変貴重な機会となりました。

アフリカと言えども標高の高いミヨベでは気温が低く、上着を着ていない子や裸足の子が寒さに震える様子も見受けられ、手をどれだけさすってもなかなか温まらないほど芯から冷えていました。そのように幾つもある課題に対し、いったい何をすることが正しいのか、何から手をつければよいのかと問いを巡らせると、なかなか答えが見つからず、日本にいる時よりもより深刻に「貧困」とは一筋縄ではいかない、非常に難しい問題なのだと痛感しました。加えて、口だけで「何かをしたい」というのは簡単だが、それを実行するには課題を長い目で見て考え、じっくりと時間をかけ解決していかなければならないという難しさがあるのだとも感じました。



今回のミヨベでの学びを活かし、貧しい人々のために自分に出来ることは何かを今一度整理し、まずは出来ることから根気よく活動していこうと思います。

ミヨベのみならず、全ての行き先、人々との出会いが僕にとって学びであり、良き思い出となりました。現地でお世話になった皆様にも深く感謝申し上げます。



ルワンダコーヒー・紅茶通信販売のお知らせ

ルワンダの自立支援及びルワンダ文化の紹介の一つとして、直接コーヒー・紅茶を輸入しています。コーヒーはダックコーヒー様が日本での焙煎を引き受けてくださり、新鮮なコーヒーをお届けしています。

コーヒー・紅茶と共に「命と教育と平和の大切さ」が日本中に広まることを願っています。

コーヒー	200g	1,200円	最小購入個数	5個	(送料込み)
紅茶	50g	300円	最小購入個数	20個	(送料込み)
発注方法		メール: info@rwanda-npo.org			

祝 通信 50 号

「ニュースレター発刊 50 号記念を祝して」

会員 齋藤照子

ニュースレターの発刊 50 号、おめでとうございます。年に 3 回発行として約 16 年余。私が会員になってからほぼ同じ年月を、ニュースレターと共に歩んで来たように思います。

今では、カラー写真も含めた本格的な出版物となっており、会員の方達も楽しく読めるように成長して来ております。

今日まで、ニュースレターの構成、編集を一手に引き受けて来た佐藤俊子さんの存在があったればこそと、御礼申し上げます。

初めは、どんなに小さな一歩でも、コツコツ持続継続した事の成果と、多くの方達が会の活動を支えて下さったこの歩みを、ニュースレターは、しっかり記録しております。それ故にこれは、会の貴重な財産です。多くの方達が協力して来たからこそこの宝です。

これからも、80 号、100 号と地道に確実な歩みを重ねて行く事を、願って止みません。共に励みましよう。



お知らせ

Rwandaful Summer2018 ～ルワンダフルサマー2018 TALK&LIVE in ふくしま～

■ 7 月 1 6 日（祝・月）13：15～16：00

■ 場所：福島県教育会館

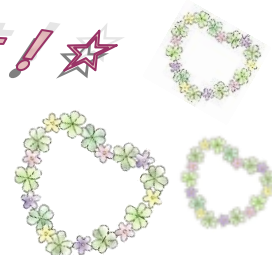
■ 内容：活動報告・トークセッション・ライブ

☆各種振替口座番号のご案内です！☆

会費振込・寄付・募金

郵便振替口座：02290-0-97126

加 入 者 名：NPO法人 ルワンダの教育を考える会



【ゆうちょ口座自動振込み寄付】 月一口 500 円から

ホームページ掲載 目標 100 名まで継続して募集します。現在 59 名登録

事務局では、事務局スタッフ及び各種イベント開催時、お手伝いくださる方を随時募集しています。一緒に楽しみませんか。連絡をお待ちしています。

HELP

—編集後記—

2002.12.1 No2 から編集に携わらせていただいています。ルイズさんの夢はどこまで続くのでしょうか。福島に住みながら一緒に地球規模の活動が出来ることにワクワクドキドキ楽しみです。 T.S



NPO法人ルワンダの教育を考える会

理事長 永遠瑠マリルイズ

〒960-8036

福島県福島市新町 8-21

TEL:024-563-6334 FAX:024-563-6335

ホームページ：<http://www.rwanda-npo.org>

E-mail: info@rwanda-npo.org